



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年02月24日 第1256「週刊五十嵐レポート」

首相の施政方針演説

2月20日、高市早苗首相が施政方針演説をした。

冒頭部分に「信(しん)以(もつ)て義(ぎ)を行い、義以て命(めい)を成す」という言葉を発した。

この言葉は、中国古典の歴史書「春秋左氏伝」からの由来。同書は紀元前の春秋時代(紀元前770～前476年頃)の史実を記した歴史書。同書の元になったのが、「春秋」という歴史書である。「春秋左氏伝」は「春秋」の注釈本。

「春秋」を編纂したのが孔子と言われている。孔子はなぜ歴史を書いたのか。乱世を正すために歴史を書いたと言われている。孔子は軍事的革命家ではない。孔子が選んだのは歴史を書くこと(崩壊した秩序を立て直す。善悪の基準「義」を示す)。孔子は歴史を通して「義」を後世に示したとされている。

「春秋左氏伝」の「信以て義を行い、義以て命を成す」の話に戻す。

「信以て義を行う」:誠実さ(信)に基づいて、正しい道理や正義(義)を実行する。

「義を以て命を成す」:正しい道理や正義(義)によってこそ、与えられた使命・責務(命)を全うできる。

意味を整理すると、誠実さ・信頼を基盤に、正しい道(義)を実行し、それによって本来の使命(命)を実現するという精神・生き方の原則を示す言葉。

高市首相の演説では、国家運営の正統性は「信(国民からの信頼)」にある。その信頼に基づいて「義(正しい政策)」を実行する。それによって国家の使命を果たす。この言葉の核心は、1. 信(誠実・信頼) 2. 義(正義・道理) 3. 命(使命・国家の存立)。

高市首相はこの後、「国民の皆様から賜ったご信任を基礎として、これから述べる施政方針にのっとり、一つひとつの政策を誠実に、ブレずに、実行してまいります。『日本列島を強く豊かに』と述べた。

日中関係が冷え込んでいる昨今、日本の首相が選んだ言葉が中国の古典から引用したもの。ビジネスにも通じる。中国の歴史は深い。

ちょっと
気になる出来事

2月17日付朝日新聞、「もっと成長したくて 北口の決断」という記事。陸上女子やり投げの北口榛花が男子やり投げの世界記録保持者ゼレズニー氏の指導を受けるため、南アフリカに向けて出国した。昨季まで7年師事したチェコ出身のセケラックコーチとの契約を終了し、元世界王者の技術を学ぶ。

競技生活は永遠ではない。世界一は取ったけど、もっと成長したくて今回の決断をした。

前任のセケラックコーチは、チェコでジュニア選手を中心に指導していた。指導を受け始めた際に大学生だった北口にとっては、やり投げ大国の技術の基礎を学ぶ上で適任だったのかもしれない。世界選手権と五輪で頂点に立った今、次のステップはアジア記録や大台の70mになる。

北口は言う。「ゼレズニーさんがどう投げていたか。その分析や情報はどこでも入手できる。でも、それが本人の意識と一緒なのかは疑問。実際はどうなのか聞きたいし、私の投てきをどう見るか、聞いてみたかった」

動画やAIだけでは分からない。そこに人間の価値がある。



一口メモ
知識

人生の楽しみ 2

お腹がすいたら質素な食事をとり、のどが乾いたら水を飲み、寝る時には肘を枕がわりに横になる。そんな物質的には恵まれない生活をしていても、内面に目を向ければ、自分の精神の日々の向上を楽しむことはできるはずだよ。

何も貧乏がいいと言うつもりはないが、人を押しのけてまで金持ちになったり出世したりしたって、富や地位などあの空に浮かんでいる雲のように、ほんの一時のはかない存在じゃないか。

それに引き替え、精神的な向上は一生もんだよ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榊五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

